

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第67集

中屋敷遺跡

- 緊急地方道整備事業による県道久保大宮線改良工事に伴う中屋敷遺跡発掘調査報告書 -

2002.2

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第67集

中屋敷遺跡

- 緊急地方道整備事業による県道久保大宮線改良工事に伴う中屋敷遺跡発掘調査報告書 -

2002.2

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

中屋敷遺跡のある香北町美良布は、弥生時代の銅鐸2個が伝わっている町として有名なところで、物部川中流域に開けたこの地は、古代から阿波と土佐とを結ぶ交通の要衝としての役割を果たしてきました。銅鐸や延喜式内社である大川上美良布神社の存在もこのような背景のなかで理解することができるものと思います。

香北町の歴史は古く最近では旧石器時代の遺跡も発見され、実に2万年以上の昔から人々の営みのあったことが確認されています。遺跡調査で美良布が周知されるようになったのは、昭和44年に行われた美良布遺跡の調査からだと思います。このころは県下でも発掘調査は極めて稀なことであり、まさに先駆的な事業として位置付けることができましょう。しかもこの時の調査で出土した縄文時代晩期の土器は高知平野周辺部で初めてのものであり、以来、美良布遺跡が当該期の研究史に不動の位置を占めるようになりました。

中屋敷遺跡は、その美良布遺跡に隣接しており関連遺構・遺物の検出に期待がもたれていました。今回の調査においては、近代の瓦土粘土採掘による破壊のため、中世の遺構・遺物が少量検出されるにとどまりました。しかしどんなに小さな遺跡、僅かな遺物であっても私たちの祖先の営み、地域の歴史を知る上では掛け替えのないものです。今後とも埋蔵文化財への一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年2月

(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 門田 伍朗

例 言

- 1 本書は、緊急地方道整備事業による県道久保大宮線改良工事に伴う中屋敷遺跡発掘調査報告書である。
- 2 中屋敷遺跡は、高知県香美郡香北町美良布西清水1303他に所在する。
- 3 調査は、高知県南国土木事務所から委託を受け(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 調査期間
試掘調査 平成13年4月11日～4月12日 本調査 平成13年5月7日～5月11日
- 5 調査面積
試掘調査 275m² 本調査 200m²
- 6 調査体制
調査担当 調査員 出原恵三(財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター調査課 第3班長)
総務担当 中条英人(財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター総務課 主幹)
- 7 本書の執筆・編集は出原恵三が行った。
- 8 現場作業および整理作業には下記の方々に従事して頂いた。
現場作業 吉川誠一 吉川徳子 森本久美
整理作業 松木富子 浜田雅代 山口知子
- 9 出土遺物については、「01-13KN」と注記し関連図面・写真とともに(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

調査にいたる経過及び調査の経緯	1
遺跡の位置と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
調査結果	4
1 試掘調査 (Fig.)	4
2 本調査	4
(1) 遺構	4
(2) 遺物	4
3 まとめ	8

挿図目次

Fig. 1 香北町位置図	1
Fig. 2 周辺の遺跡分布図	3
Fig. 3 中屋敷遺跡調査区位置図	5
Fig. 4 試掘グリット土層柱状図	6
Fig. 5 調査区北壁セクション図	6
Fig. 6 遺構全体図	7
Fig. 7 ピット平面、エレベーション図	8
Fig. 8 出土遺物実測図	8

図版目次

PL 1 中屋敷遺跡の遠景、調査前の風景	9
PL 2 試掘グリット	10
PL 3 調査区全景	11
PL 4 出土遺物	12

調査にいたる経過及び調査の経緯

平成13年度緊急地方道路整備事業により施工される県道久保大宮線美良布工区は、香北町の中心市街地とこの地域の幹線道路である国道195号線とを繋ぐ延長200mの新設道路である。平成11年より用地買収をはじめ、同13年度より工事着手・同完了を予定しているものであるが、工区内には弥生時代～中世の遺物散布地である中屋敷遺跡が所在している。また、東側300mには縄文時代晩期～中世の著名な遺跡であるところの美良布遺跡があり、これらに関連する埋蔵文化財の遺存している可能性が考えられるところから、平成13年2月に高知県教育委員会文化財保護室は、埋蔵文化財保護の立場から開発部局である高知県南国土木事務所と協議を行った。その結果、工区内について先ず工事に先行して試掘調査を行い、埋蔵文化財の遺存状況によっては、本発掘調査を行い記録保存に努めることとなった。そして試掘調査及び本調査については財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター（以下埋蔵文化財センター）が実施する運びとなった。

埋蔵文化財センターは、試掘調査について平成13年4月10日、高知県南国土木事務所と契約締結し、4月11日、12日に工区内に11個（No.1～11）の試掘グリットを設定し地下の状況を調査した。その結果、No.5から中世の柱穴を3個検出した。周辺は攪乱が激しかったが、関連遺構の存在する可能性があるとの判断から、No.5を中心に約300㎡を対象に本調査の必要性を認めた。続いて埋蔵文化財センターは、4月23日に高知県南国土木事務所と本調査の契約締結を行い、5月7日から5月11日まで本調査を実施した。試掘調査で攪乱と考えた掘り込みは、近代の瓦粘土採掘坑であることが判明し、しかもその採掘坑は予想を遥かに上回る規模を有しており、調査区外にまで広がっていた。したがって試掘時に予想していた中世の遺構はほとんど残存していなかった為に、調査面積を200㎡に縮小し本調査を切り上げた。



Fig. 1 香北町位置図

遺跡の位置と環境

1 地理的環境

中屋敷遺跡の所在する香北町美良布は、町内を南北に二分して流れる一級河川物部川中流域の左岸に発達した河岸段丘上にある。物部川は徳島県境近くの標高1893mをピークとする三嶺山系に源を発し物部村、香北町、土佐山田町を貫流し香長平野を潤しているが、第二次世界大戦後に三つのダムが建設されるまでは、高知市内や下流域と中・上流域を結ぶ河川交通の要路としても重要な役割を果たしていた。

物部川中流域の河岸段丘は、左岸に広く右岸は狭隘であるが、この違いは右岸側を峻険な秩父帯が走り、左岸は比較的緩やかな四万十帯に属しているところに起因している。これは両側から流れ込んでいる支流に大きな違いが見られる。右岸側の支流は急流溪谷をなしているのに対して、左岸側のそれは蛇行を繰り返し段丘上に小扇状地を形成している。この違いは遺跡の立地にも大きく影響している。すなわち右岸側では、西から岩改川、大掘谷、川上谷などの小河川が流れ、河口付近には太郎丸遺跡や堂の前遺跡、美良布遺跡など縄文から中・近世にいたる遺跡が立地している。現在の集落もその延長上にあるとっていいであろう。河岸段丘上に点在する遺跡は、これら小河川を生命の水として生活を営んできたのである。

2 歴史的環境

香北町で最も古く遡る遺跡は、永野南岡遺跡を挙げることができる。ここからは、表採資料ではあるが旧石器が確認されている。次いで太郎丸遺跡からは縄文早期の黄島式土器が比較的まとまって出土しており、美良布遺跡からも僅少ではあるが早期と考えられる厚手無文土器が出土している。また最近、西オソバ遺跡から縄文後期土器が数点採集されている。

香北町内で最も知られている遺跡は、美良布遺跡である。中屋敷遺跡の東300mに展開し、町内で最も大きな遺跡である。1969年に国道195号線バイパス工事の際に発見され、縄文晩期中葉の八反坪式土器や弥生中・後期土器が出土し、特に晩期土器については、県中央部における初めての出土であり注目された⁽¹⁾。1989年には国道195号線の南側6000m²の調査が実施され、当該期の土坑6基やピットが検出され、八反坪式土器も出土している⁽²⁾。1986年には川上神社の西側で小規模調査が行われ弥生前期末土器が出土している⁽³⁾。物部川水系の弥生時代遺跡は、南国市田村の田村遺跡に前期初頭の集落が出現し中葉頃まで営まれるが、前期末になると周辺部に拡散分布し遺跡数が飛躍的に増加し新たな展開がはじまる。美良布遺跡の弥生集落もこのような動向の中で成立したものである。遺構は未確認であるが、遺物は中・後期の土器が出土しており、後期のものと考えられる鉈も採集されている⁽⁴⁾。美良布遺跡は弥生前期から後期に続く、物部川中流域にあって中心的な遺跡として位置付けることが可能で、弥生時代の遺跡の中心は国道の北側に展開しているものと考えられる。

川上神社には、2個の近畿式銅鐸が社宝として伝世されている。このことも弥生時代における当地域の位置付けを考える上で重要である。出土地点などについては不明であるが、近世文書によれば元禄期には川上神社に蔵されていたことが明かである⁽⁵⁾。土佐では10個の銅鐸が確認されているが、その内7個までが物部川水系にある。この2例はその中で最も上流域に位置する。

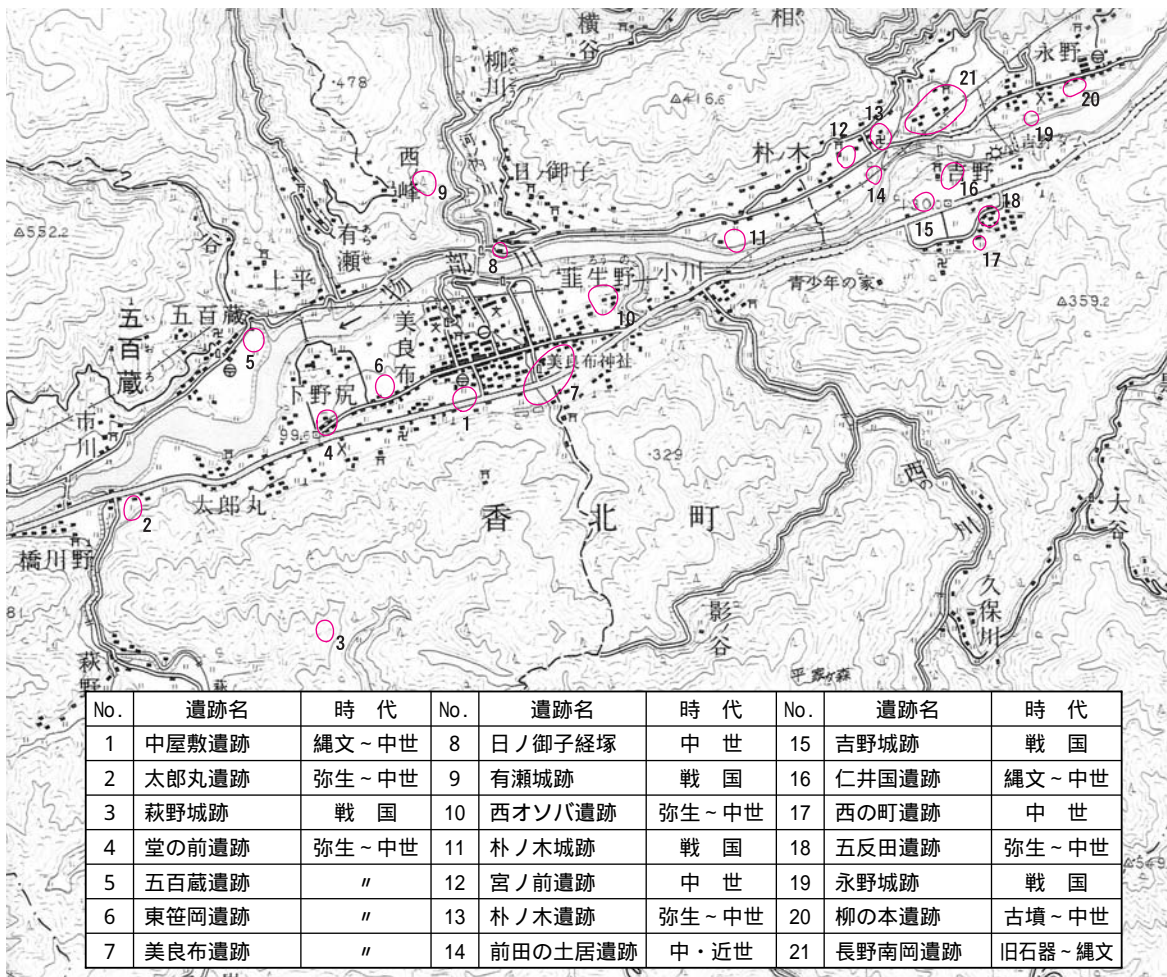


Fig. 2 周辺の遺跡分布図

また当地域の古墳時代の資料は皆無であるが、古代には川上神社が延喜式内社として登場する。上流にも式内社小松神社が鎮座しており、さらに「朝野群載」⁽⁶⁾には物部村神池に古代寺院神通寺の存在が窺われることから、物部川沿線は古代には阿波に通じる要路としての役割を果たしていたことが考えられる。

1989年の美良布遺跡の調査は、物部川中流域における中世遺跡調査の嚆矢となった。掘立柱建物2軒や多数の土坑やピットを検出し、土師器の坏、皿を中心に瓦器や貿易陶磁器などが出土している⁽²⁾。美良布遺跡とその周辺は、この地域の原始・古代から中世の中心的な集落として営まれて来たのである。

註)

- (1) 岡本健児・広田典夫『美良布遺跡発掘調査報告書』香北町教育委員会
- (2) 出原恵三『美良布遺跡』香北町教育委員会1991年
- (3) 出原恵三「美良布遺跡の再検討」『土佐史談』177号 土佐史談会 1988年
- (4) 出原恵三「美良布遺跡出土の鉤について」『土佐史談』166号 土佐史談会 1984年
- (5) 谷 重遠『秦山集』谷氏蔵版 高知県立図書館蔵
- (6) 前田和男『土佐古代史の研究』高知市民図書館 1975年 所収

調査結果

1 試掘調査 (Fig. 3 ~ 5)

調査対象地の南から北に向かってNo. 1 ~ No.11の試掘グリットを設け、5 m × 5 mの試掘坑を順次掘削し、土層断面や遺物包含層、遺構の有無を確認した。基本的な層準は、No. 1 ~ 6までとNo. 7より北とで違いが見られた。No. 1は、耕作土下に厚さ80cm余りの山土による客土が見られ、No. 6は床土下に瓦焼き粘土の採掘坑が見られたが、概ね耕作土下層には粘土やシルト、音地層の堆積が1 m前後あり、その下層が砂礫層となっている。No. 7より北では現表土層直下が砂礫層の堆積を示している。両者の砂礫層は不整合であると考えられる。

No. 5では唯一 層上面で遺構を検出することができた。ここでは、部分的ではあるが厚さ10cm程度のアカホヤ火山灰層(音地層)を確認することができた。またNo. 2とNo. 3の 層においては、土師器細片が少量出土したために両者を拡張連結して遺構を求めたが検出することはできなかった。No. 9は、 層の砂層下に土壌化した黒色土の堆積 = 層があり精査したが遺物を認めるにはいたらなかった。しかし今後この層準には注目しておく必要がある。

2 本調査

(1) 遺 構 (Fig. 6)

試掘グリットNo. 5を中心に200㎡について本調査を実施した。調査区を広げたところ遺構検出面である 層は、近代の瓦焼き粘土採掘坑に大きく切られており、図示したように幅1 m前後、長さ12m前後の島状にしか残存していなかった。この周囲の土は、瓦粘土採掘後に埋め戻されたものである。島状残存部の西部と東部では掘削の深さも埋め戻し方も異なっている。西部は、掘削深度も60 ~ 70cmで埋め戻しの客土も ~ 層に分かれており、中・近世遺物も出土していることからここで掘削した土で埋め戻されたものであろう。東側では掘削深度も1 m以上で砂礫層で一気に埋め戻されており、遺物は全く見られなかった。後者はより規模の大きな掘削によるもので、時間差もあるものと考えられる。近代以降、戦前までこの周辺ではこのような瓦粘土の掘削が行われ、近隣には瓦窯を経営する業者が数軒いたと言うことを聞き取り調査で得ることができた。近代の産業遺構の一つとして捉えることができよう。

層の残存部からは4個(P1 ~ 4)の中世ピットを検出した。P1は35 × 30cmの楕円形で深さ25cm、P2は30 × 25cmの楕円形で深さ20cm、P3は25 × 15cmの楕円形で深さ20cm、P4は40 × 33cmの楕円形36cmを測る。埋土は各々濃茶色粘性土で、土師器細片が出土しているが図示できるものはない。

(2) 遺 物 (Fig. 8)

図示した遺物はすべて西側の埋め戻し土から出土したものである。1・2は土師器坏底部で、チャートと赤色風化礫の砂粒を多く含み、共に糸切りである。1は底径7 cm、2は8.6cmである。3は土師器坏口縁部で口径12.6cmである。チャート、長石などの細粒砂を含む。4は仏飯器である。口径7.4cm、器高5.3cm、脚部の径4.2cmを測る。灰白色堅致な胎土で灰釉を施釉、焼成不良のため白濁している。裾部の露胎部は褐色を呈す。5は肥前系の手塩皿である。一辺7 cmの隅丸方形の口縁部を有し高台も一辺3.5cmの方形である。内面には型打による陽刻器菊花文が描かれている。6は肥前系の瓶であ

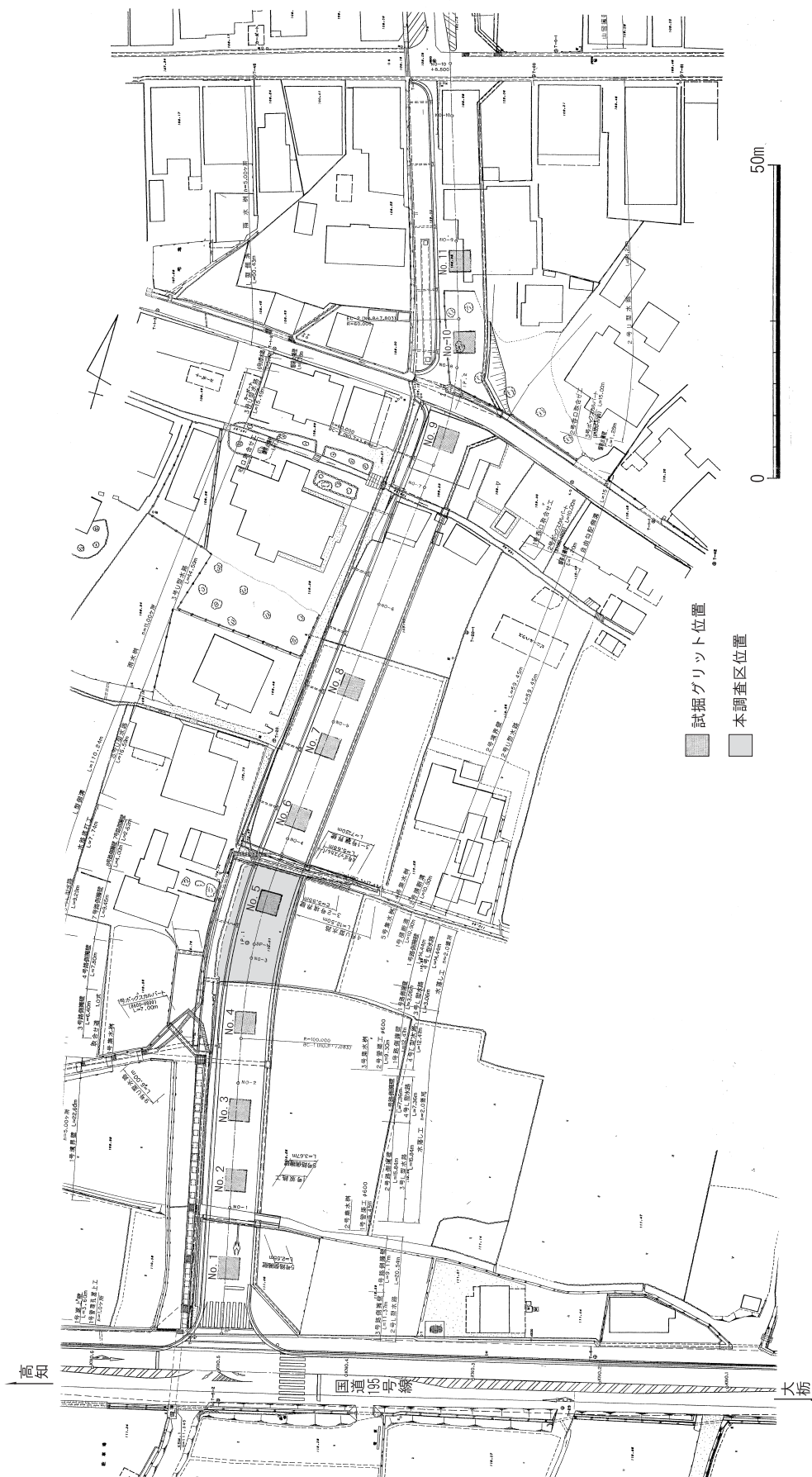


Fig. 3 中屋敷遺跡調査区位置図

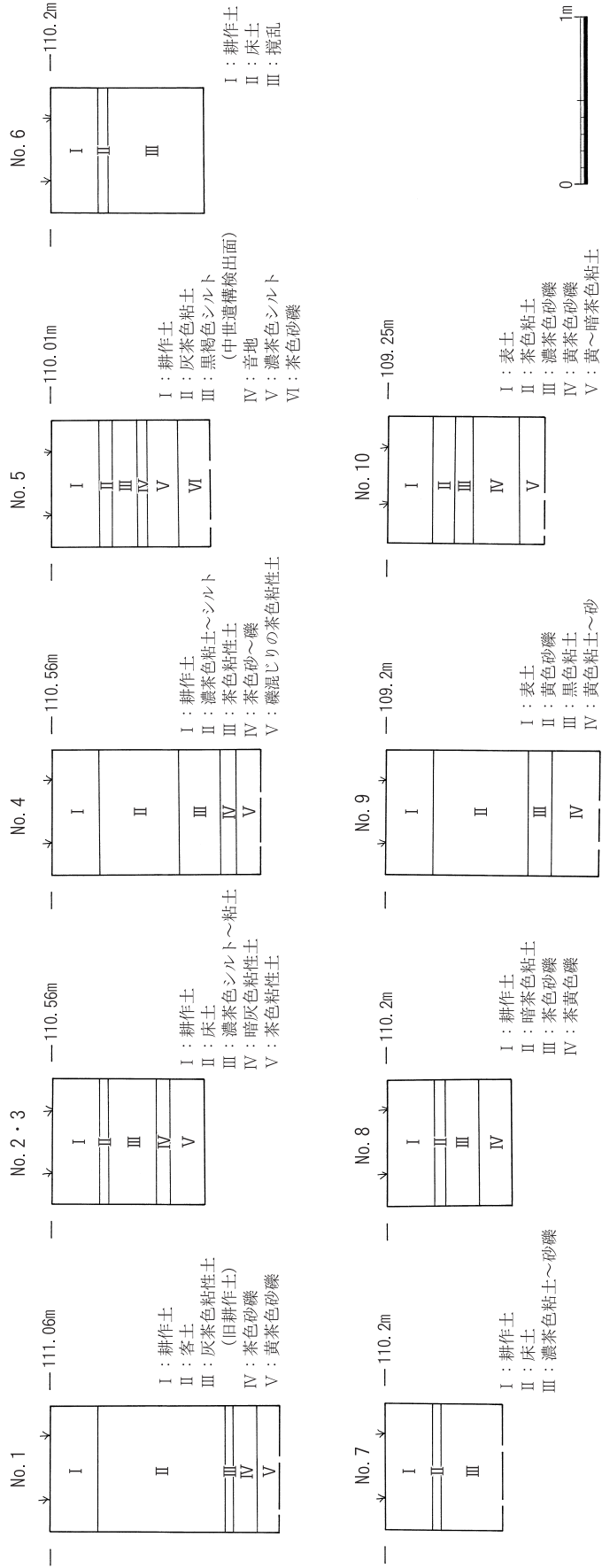


Fig. 4 試掘グリット土層柱状図

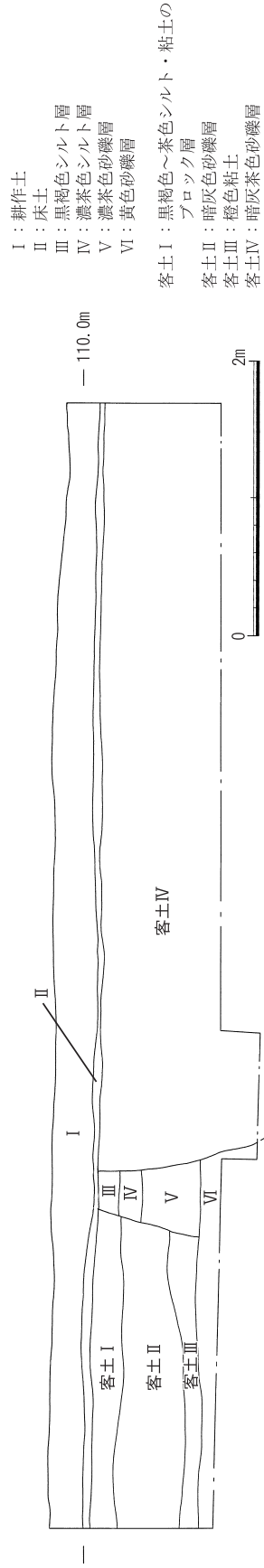


Fig. 5 調査区北壁 セクション図

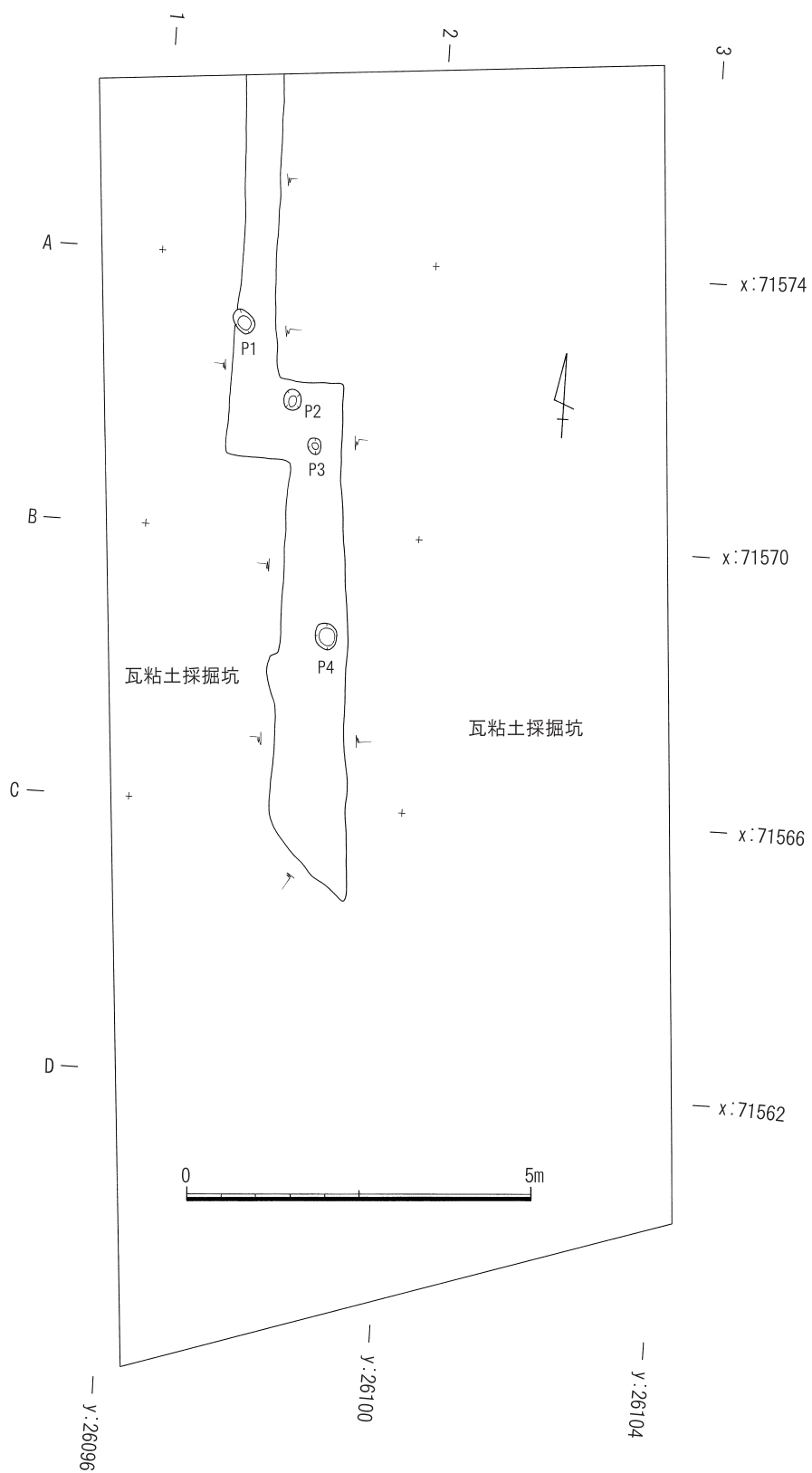


Fig. 6 遺構全体図

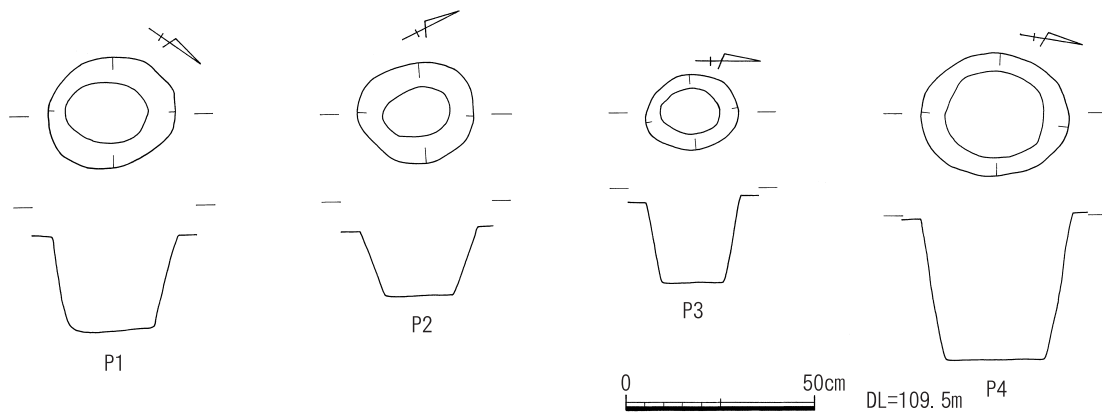


Fig.7 ピット平面、エレベーション図

る。白色精緻な胎土で、釉は白濁し高台内面まで施釉される。高台径は4.4cmである。外面の呉須は暗藍色に発色している。7は砥石片で二面に使用痕が認められる。土師器坏は15世紀代、磁器類は18世紀以降のものである。

3 まとめ

中屋敷遺跡が美良布遺跡に近接しているところから関連遺構の検出に期待して本調査を実施したが、大半が瓦粘土の掘削により中世遺構面は破壊されていた。瓦粘土の掘削坑は相当大規模に行われていることが予想される。近代の地域産業として記録に留めておく。

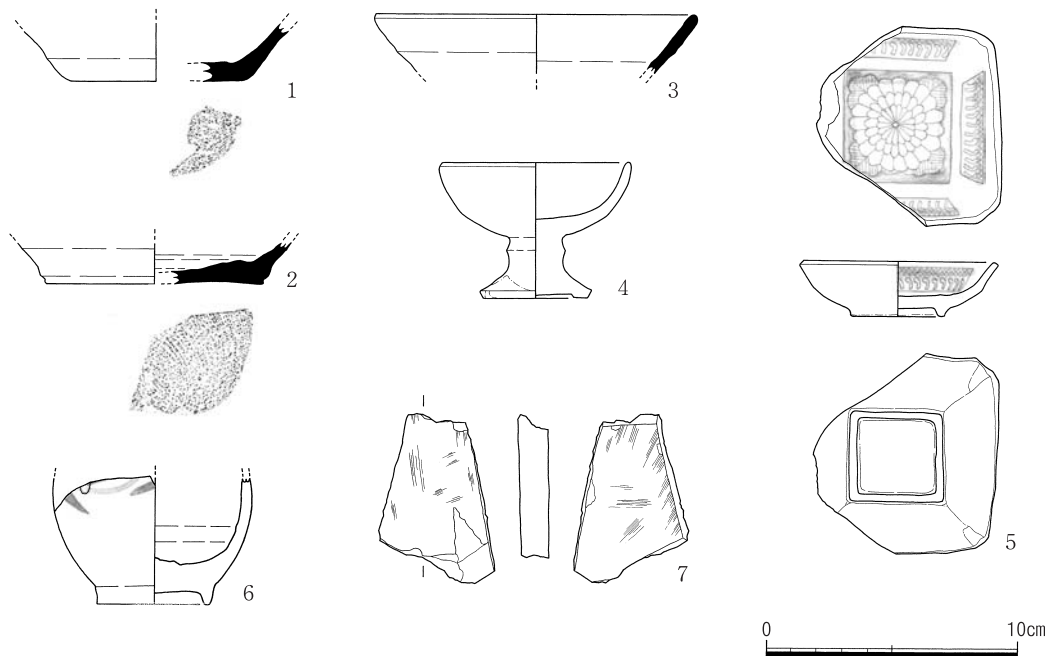


Fig.8 出土遺物実測図

写 真 图 版



中屋敷遺跡遠景（北から）



中屋敷遺跡調査前全景（南から）

PL 2



試掘グリットNo. 2・3



同No. 4



同No. 5



同No. 6



同No. 7



同No. 8



同No. 9



同No. 11

試掘グリット

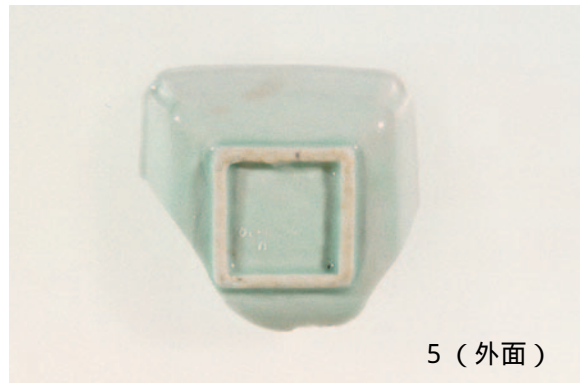
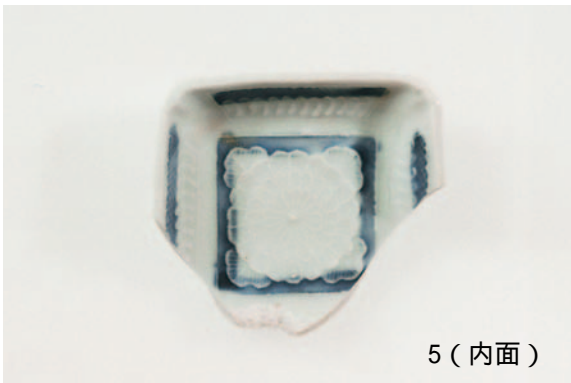


本調査区全景（南から）

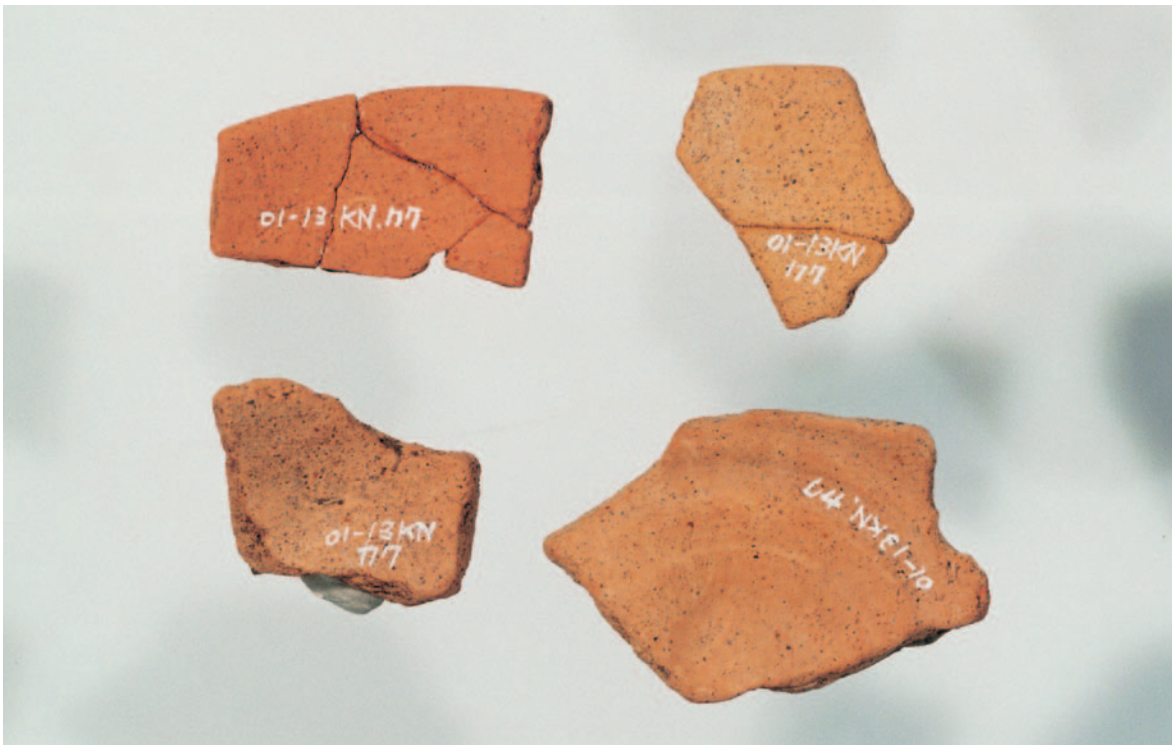


同 上（北から）

PL 4



中屋敷遺跡出土の磁器



中屋敷遺跡出土の土師器坏

報告書抄録

ふりがな		なか や しき い せき						
書 名		中 屋 敷 遺 跡						
副 書 名		緊急地方道整備事業による県道久保大宮線改良工事に伴う中屋敷遺跡発掘調査報告書						
巻 次								
シ リ ー ズ 名		高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シ リ ー ズ 番 号		第67集						
編 著 者 名		出原恵三						
編 集 機 関		(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒783-0006 高知県南国市篠原南泉1437 - 1 TEL(088)864 - 0671						
発 行 年 月 日		西暦2002年 2 月 1 日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北 緯 °	東 経 °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なか や しき 中屋敷遺跡	こうちけん か みぐん 高知県香美郡 かほくちうひらふ 香北町美良布 にししみず 西清水	326	220014	33 ° 37 22	133 ° 47 30	2001年 4月11・12日 2001年 5月7日 ~ 5月11日	200m ²	県道久保大 宮線道路改 良に伴う事 前調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
					土師器坏			

中屋敷遺跡

2002年2月

編集 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

発行 高知県南国市篠原南泉1437 - 1

電話 (088) 864 - 0671

印刷 (有)西村謄写堂